

上毛のいぶき

秋

vol. 10

Contents

広がり始めた地域づくり活動事業	2
地域づくりクロズアップ	4
こうげわくわく子ども探険隊Ⅲ	6
投稿ひろば	10
地域づくり協議会	12

SEPTEMBER.2011 <http://www.town.koge.lg.jp>

こうげわくわく子ども探険隊Ⅲ

地域が育む上毛の未来

地域で活躍する皆さんが子どもたちの先生となって、普段の学校生活とはちょっと違う体験型の授業を開催しました。今年のメインテーマは町の基幹産業である農業。農家体験を中心に、4日間で盛りだくさんの体験活動が行われました。

詳しくはP6で



上毛町地域づくり協議会 「いぶきの里」会所式

地域づくりの活動拠点「いぶきの里」が大池公園ふるさと手づくり村に完成し、7月24日(日)に会所式が開催されました。50名を超える会員が参加し、山下会長をはじめ、来賓の鶴田町長、坪根議長、大平樂の岡本社長など6名のテープカットで、協議会の新たな門出を祝いました。

いぶきの里というネーミングは、協議会の代表者会議で決定しました。地域づくり広報誌「上毛のいぶき」で親しまれてきた「いぶき」という言葉が、これまで活動の芽を育ててきた「自分らしさ」を表現するものとして選ばれたものです。

山下会長からは「誰も、一人で頑張っても限界がある。いろいろな人とつながって、協力し合いながら、住んで良かったと思える町にしていきたい。地域内だけでなく、地域外の人たちとも楽しく活動できる場所にしていきたい」と抱負が述べられました。

式典後は、大平樂に会場を移して交流会が行われました。会員それぞれの活動状況など情報交換をしながら、親睦を深めていました。



認定審査会 会員の活動計画を審査

8月26日(金)に、協議会による地域づくり活動認定審査会が、いぶきの里で行われました。これは、会員に対する活動サポートの一環として行われるもので、認定された活動は、助成金をはじめ、人的支援、備品の貸し出しなどが受けられるようになります。審査員は、協議会役員が務めました。

今回は、26団体が活動計画を協議会に提出。書類審査の結果、全ての活動が認定されました。中でも、町の文化財をオリジナルの絵本で紹介している絵本製作委員会からは、今年度から自主運営で活動する計画が示され、審査員を驚かせていました。会員としては、自主運営第一号。審査員の皆さんは、一層士気を高めている様子でした。



いぶきの里

上毛町大字下唐原1649-1 TEL/FAX 0979-72-4555

交流の場として、また、情報発信基地として、多くの方が利用できるように工夫していきます。お気軽にお立ち寄りください。

- 地域づくり協議会
- 正会員 地域づくり活動事業で認定され、3年間活動した団体
 - 準会員 地域づくり活動事業で認定され、町の補助事業を継続している団体
 - 賛助会員 協議会の活動趣旨に賛同する団体または個人



子どもの頃に体験したことは、ずっと記憶の片隅に残っているものだとされています。時間、場所、その時の感情などが関連しながら記憶を形成していて、これは、エピソード記憶と言うそうです。感受性豊かな幼少期に、どれだけ体験してきたか、あるいはさせてきたか。きついつか、子どもたちが大人になったとき、顕現してくるものなのでしょう。わくわく子ども探険隊Ⅲでは、収穫から販売まで、一貫した流れを体験に盛り込みました。農産物が売れていく仕組みを体験から学ぶことで、その時の気づきや感情をストーリーと一緒に記憶に残してほしかったからです。

また、読み聞かせグループの松本さんには、こんなエピソードがあるそうです。絵本「ぐるんぱのようちえん(1966年初版)」に登場するぞうの「ぐるんぱ」は、行く先々でとてつもなく大きなものばかり作って失敗ばかり。でも、最後につくった幼稚園で全てが活かされ、大成功するお話です。これを偶然書店で目にした松本さんは迷わず購入。子どもの頃に読んだ絵本が単に懐かしいというのではなく、自らの人生経験から「今までやってきたことは決して無駄じゃなく、全てに意味がある」という機微にふれ、とても感銘を受けたと言います。子どもの頃の記憶があるから、大人になって初めて気付かされることに深く感動する。そんな絵本に秘められたパワーは未知数なのかもしれません。

地域づくりの拠点がオープン

編集後記

